

## 観察した鳥類チェックリスト

- |             |            |           |           |
|-------------|------------|-----------|-----------|
| ★キジ目        | ★ツル目       | ★ハヤブサ目    | □ ツグミ     |
| ・キジ科        | □ クイナ      | ・ハヤブサ科    | □ ジョウビタキ  |
| □ キジ        | □ バン       | □ チョウゲンボウ | ・スズメ科     |
| ★カモ目        | □ オオバン     | □ ハヤブサ    | □ スズメ     |
| ・カモ科        | ★チドリ目      | ★スズメ目     | ・セキレイ科    |
| □ コブハクチョウ   | ・チドリ科      | ・モズ科      | □ キセキレイ   |
| □ オカヨシガモ    | □ タゲリ      | □ モズ      | □ ハクセキレイ  |
| □ ヨシガモ      | □ ムナグロ     | ・カラス科     | □ セグロセキレイ |
| □ ヒドリガモ     | □ コチドリ     | □ カケス     | □ タヒバリ    |
| □ マガモ       | ・セイタカシギ科   | □ オナガ     | ・アトリ科     |
| □ カルガモ      | □ セイタカシギ   | □ ハシボソガラス | □ カワラヒワ   |
| □ ハシビロガモ    | ・シギ科       | □ ハシブトガラス | □ アトリ     |
| □ オナガガモ     | □ タシギ      | ・シジュウカラ科  | □ ウソ      |
| □ コガモ       | □ イソシギ     | □ ヤマガラ    | □ シメ      |
| □ ホシハジロ     | ・タマシギ科     | □ シジュウカラ  | □ コイカル    |
| □ キンクロハジロ   | □ タマシギ     | ・ヒバリ科     | ・ホオジロ科    |
| □ ミコアイサ     | ・カモメ科      | □ ヒバリ     | □ ホオジロ    |
| ★カイツブリ目     | □ ユリカモメ    | ツバメ科      | □ カシラダカ   |
| ・カイツブリ科     | □ セグロカモメ   | □ ツバメ     | □ アオジ     |
| □ カイツブリ     | □ オオセグロカモメ | ・ヒヨドリ科    | □ オオジュリン  |
| □ カンムリカイツブリ | ★タカ目       | □ ヒヨドリ    | □         |
| □ ミミカイツブリ   | ・ミサゴ科      | ・ウグイス科    | □         |
| □ ハジロカイツブリ  | □ ミサゴ      | □ ウグイス    | □         |
| ★ハト目        | ・タカ科       | ・エナガ科     | □         |
| ・ハト科        | □ トビ       | □ エナガ     | □         |
| □ キジバト      | □ チュウヒ     | ・メジロ科     | □         |
| ★カツオドリ目     | □ ツミ       | □ メジロ     | (外来種や家禽)  |
| □ カワウ       | □ ハイタカ     | ・ヨシキリ科    | □ バリケン    |
| ★ペリカン目      | □ オオタカ     | □ オオヨシキリ  | □ ガチョウ    |
| ・サギ科        | □ ノスリ      | ・セッカ科     | □ アヒル     |
| □ ヨシゴイ      | ★ブッポウソウ目   | □ セッカ     | □ ドバト     |
| □ ゴイサギ      | ・カワセミ科     | ・ムクドリ科    |           |
| □ アマサギ      | □ カワセミ     | □ ムクドリ    |           |
| □ アオサギ      | ★キツツキ目     | ・ヒタキ科     |           |
| □ ダイサギ      | ・キツツキ科     | □ シロハラ    |           |
| □ チュウサギ     | □ コゲラ      | □ アカハラ    |           |
| □ コサギ       |            |           |           |

## 【3月のテーマ】 ものまねチャンピオン・モズ

案内人：小田谷嘉弥（鳥の博物館学芸員）  
北村章子（鳥の博物館市民スタッフ）



▲モズの雄は春になると、目立つ場所に止まって小さな声で他の鳥の鳴き声のまねをします。

モズの漢字表記のひとつに「百舌鳥」というものがあります。これは、いろいろな他の鳥の鳴き声をまねすることに由来していると言われていています。モズは、何のために鳴きまねをするのでしょうか？ 繁殖期に入ったモズの生活を観察しながら、その謎を解き明かしていきましょう。

2023年3月11日（土）

# モズの1年

モズがどんなふうになん年を過ごしているのか見てみましょう。

秋



越冬地にやってくると、高鳴きを行い、1羽ずつなわばりをつくります。

夏



1回目の繁殖が終わると北日本などに移動し、2回目の繁殖をするといわれています。

春



2月ごろから、雌は雄のなわばりに入る形でつがいになります。雄のなわばりの中で1回目の繁殖をします。

冬



雄と雌は別々のなわばりで越冬します。

# モズの鳴きまねのひみつ

モズが他の鳥の鳴きまねを最もよく行うのは、繁殖期の初めである2月から3月です。この時期にいないはずのオオヨシキリやツバメなどをはじめ、様々な鳥の声を、少し控えめな声で次々とまねるのが特徴です。

モズの鳴きまねは、雄が雌に求愛するために行うと考えられています。最近の研究で、早口で鳴きまねする雄ほど雌と早くつがいになれること、貯食してある「はやにえ」をたくさん食べた雄ほど、早口で歌えることが明らかになっています。



貯食しておいたはやにえを食べる

早口でものまねできるようになる



早く雌とつがいになることができる

